



1歳児クラス | とうきょうすくわくプログラム 実施レポート(全3回)

第3回

バランスや調整力を高め、動きの見通しを持つ。

第3回では、ジャンプ台や一本橋を組み合わせたコースに挑戦し、子どもたちが次の動きを考えながら進む姿が見られました。

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

バランスボード、ジャンプ台、一本橋、トンネル、
ウェーブ型平均台☆、プロジェクター☆
(☆マークは新規購入品、)

探究活動の実践

2025年11月29日、これまでの活動を通して、子ども達は自分の力で進む楽しさやバランス感覚を意識する姿が増えてきたことから、ジャンプ台や一本橋などを組み合わせた簡単なコースを設定した。より複合的な動きを体験する中で、子ども達が目の前の動きや次に行う動作を予測しながら挑戦し、体の使い方や調整力をさらに発展できるようにした。

また、親子ふれあい遊びの活動として行事にも取り入れ、これまでの活動を振り返りながら、活動の楽しさや子ども達の成長を保護者へ共有した。



活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

- ・コースでは、跳ぶ・歩く・バランス調整するといった動作を組み合わせている。一つの動きを経験すると、子ども達は「これ!」と次に進む動きを指さして自分で見つけながら挑戦していた。
- ・成功すると拍手や喜びの声を上げたり、保育者や友だちに向かって笑顔で知らせたりする姿が多く見られた。
- ・子ども同士では友だちが挑戦する姿を見て真似したり、次のコーナーをポンポンと軽く叩いて友だちに知らせたりするなど、言葉で伝えなくても自然に意欲を共有する姿が見られた。
- ・保育者は安全を見守りつつ、適宜言葉がけやさりげなく手助けを行い、子ども達の挑戦意欲を引き出しながら、成功体験と一緒に喜び関わりを大切にした。
- ・行事の中でからだ遊びを取り入れることで、これまでの活動を通して得た身体的発達や成長の様子を保護者へ共有することができた。また、子ども達が挑戦を重ねながら成長してきた過程を、目で見て感じてもらうこともできた。
- ・ウェーブ型平均台を取り入れたことで、子ども達は波打つ形状による高さや傾きの変化に気づき、足を慎重に運びながらバランスを保とうとする姿が増えていった。足の位置や体の向きを確かめながら進む中で、揺れや傾斜を予測しながら体を安定させようともしており、調整力が育まれている。



振り返りによって得た先生の気づき

- ・様々な動作を繋げながら、自分で次の動きを見つけて挑戦する姿から、動きを見通して行動する力が育ってきていると感じた。
- ・成功した際に拍手や笑顔で気持ちを表現したり、友だちの挑戦する姿を見て真似したりするなど、体を動かす経験が喜びの共有ややりとりにも繋がっていると気が付いた。
- ・行事としてからだ遊びを取り入れることで、日々の活動の積み重ねが子どもたちの成長に繋がっていることも共有できた。子どもたちが挑戦を重ねてきた過程を実際に見てもらうことで、保育のねらいや価値を伝える機会にもなっていると感じた。
- ・保育者は子どもの動きや表情を丁寧に観察することで、「どこまで見守るか」「どこで手助けをすると自信に繋がるか」を判断する力が養われた。こうしたさりげない関わりが子ども達の挑戦意欲をより引き出すことに繋がったと感じている。また、「やっpegらん」ではなく、「どうするかな?」「もう少しでできそうだね」といった言葉掛けにより、子ども自身が考えたり、自分の力でやってみようとしたりする気持ちを尊重できることを再確認した。活動を通して、子どもの主体的な挑戦を支える言葉を選ぶことの大切さに改めて気づく機会となった。
- ・からだ遊びでは、「できる・できない」を目的とするものではなく、子ども自身で動きながら考え、試し、感じる体験そのものが、成長に繋がる活動であることを再確認できた。活動を連続して積み重ねることで子どもの変化を確かな成長へと繋げていくこと、そして保育者がその過程を丁寧に捉えながら、柔軟に環境や関わりを調整することの大切さを改めて実感した。